

事業名	路線バス維持対策事業	総事業費	12,366 千円
-----	------------	------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図	島内バス路線の確保・維持を図りながら、1市2町及び民間事業者等が連携し、種子島全体の新たな公共交通体系や計画を構築する。	
事業の実績 と成果	取組内容	地域をまたいで運行する民間バス路線の確保・維持のため、1市2町による共同補助負担を行った。 【空港バス】種子島空港バス対策協議会へ1市2町共同で上限1,000万円の負担金（本市割当3,727千円）を支払った。 【幹線バス】運行事業者（有限会社大和組）へ1市2町共同で上限2,500万円の補助金（本市割当8,639千円）を支払った。
	成果	【空港バス】種子島発着の航空機へ接続する形で、西之表港～空港路線が4便/日確保された。 【幹線バス】西之表港着の高速船へ接続する形で、種子島高校～南種子町役場前の路線が6便/日確保された。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	令和5年4月に策定した「種子島公共交通計画」に基づき、持続可能な地域公共交通ネットワーク及び地域公共交通サービスの実現に向けて、運行体制や運行形態を検討していくこととしていたが、空港バスについては、経営赤字や運転手不足の要因により令和6年3月で廃止することとなった。代替交通については、同計画に基づき、種子島地域公共交通活性化協議会（1市2町）による予約型乗合タクシーを運行することとし、まずは令和6年4月～9月までを実証運行として位置づけ取組んでいく。また、幹線バスについても空港バスと同様将来的に廃止となる可能性もあるため、将来に向けて持続可能な交通体系の構築について引き続き検討していく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	空港バス路線廃止の危機に際し、1市2町が連携し迅速な対応が図られた。運転手不足など厳しさを増す交通問題に対しては、引き続き、官民連携の上、対策を講じていく必要がある。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	・補助条件、支払時期等について、1市2町で確認の上、実施する。 ・種子島地域公共交通計画で定めた将来像の実現に向けて、幹線バスにおける公有民営方式の導入に向けた検討を種子島地域公共交通活性化協議会の中で行っていく。 また、種子島空港予約型乗合タクシーの実証運行についても1市2町や関係機関と連携しながら取組を行っていく。
-----------	--

事業名	西之表市地域公共交通事業	総事業費	58,908	千円
-----	--------------	------	--------	----

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	公共交通の充実
	基本事業名	地域公共交通の利便性の向上

② 実施 (Do)

事業の意図		交通弱者等の市内の移動が可能となる。
事業の実績 と成果	取組内容	市街地22箇所のバス停を1日6便×2系統（北回り、南回り）で循環する「わかさ姫」と、市街地（巡回バス停+病院3箇所+種子島高校の計26箇所）と大字の利用者宅を予約乗合型で結ぶ「どんがタクシー」の運行主体である、市地域公共交通活性化協議会の運営補助を行った。業務としては市補助金の交付、実績管理、事業の広報、台風時の対応、住民及び事業者対応、国庫補助金に係る事務等が挙げられる。また、令和5年10月からは運賃無償化を実施している。
	成 果	【市街地巡回バス】年間利用者12,381人（前年度比121.2%）、令和5年度市民アンケートにおける「非常に満足、やや満足」の割合計75% 【デマンドタクシー】年間利用者15,310人（前年度比112.2%）、令和5年度市民アンケートにおける「非常に満足、やや満足」の割合計81%

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	利用実態や利用者の声等を基に、適宜、利便性向上に向けた見直しや検討を実施している。また、令和5年10月より再編交付金を財源として事業を実施している。令和5年10月からの運賃無償化の開始以降、わかさ姫、どんがタクシーともに利用者は増加し続けており、今後も交通事業者や各関係機関と協議しながら運行を行っていく必要がある。（車両の更新や、ルートの見直し等を含めて）また、種子島地域公共交通計画に基づき、幹線バス・空港バスとの接続や計画に記載する施策・事業の実施に向けて検討を進めていく必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	中心地域へのアクセスの確保及び中心市街地における回遊性を高める上で本市公共交通の仕組みは有効である。運賃無償化は、大字地域の利便性維持及び人の往来による経済活性化に寄与している。あわせて、どんがタクシーへのEV車両導入により燃料費及びCO2ともに削減効果を得ている。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	・利用実態や利用者の声等を基に、適宜、利便性向上に向けた見直しを実施する。（予約システムの導入の検討や車両の更新、ルートの見直しなど） ・現在運行している、西之表市街地巡回バス「わかさ姫」及びデマンド型乗合タクシー「どんがタクシー」に関して、幹線バスの見直しに併せて適宜見直し等を実施する。 ・利用者負担の軽減等に向けた取組を実施する。（運賃無償化） ・EV車両の導入による実証運行を行う。
-----------	---

事業名		種子島地域公共交通活性化協議会運営事業		総事業費		2,641	千円
① 計画 (Plan)							
長期振興計画 の位置づけ		施策名	公共交通の充実				
		基本事業名	地域公共交通の利便性の向上				
② 実施 (Do)							
事業の意図		島内移動の利便性が向上する。					
事業の実績 と成果	取組内容		令和3年度に設立した種子島地域公共交通活性化協議会にて、「種子島地域公共交通計画」の策定に向け、1市2町・関係機関と検討・協議を行ってきた。 令和5年度については、「種子島地域公共交通計画」に基づき、幹線バスや空港バスの実施計画を作成する予定であったが、空港バスの廃止（R6.3.30）に伴い、代替交通の検討やR6.4.1からの予約型乗合タクシーの運行に向けた準備を行った。				
	成 果		1市2町や交通事業者と連携し、R6.4.1から種子島空港予約型乗合タクシーを運行することができ、空港バス廃止に伴う代替交通を確保することができた。				
③ 振り返り (Check)							
事業実施上の課題 (事業担当者記入)		「種子島地域公共交通計画」の将来像の実現に向けては、1市2町・関係機関と検討・協議を行っていく必要がある。R5年度には種子島空港予約型乗合タクシーの運行に向けて協議を重ね、R6.4.1から運行がスタートしているが、今後は、種子島空港予約型乗合タクシーの運行状況を注視しながら、幹線バスへの公有民営方式の導入に向けても運行体制や運行形態を踏まえた検討が必要であることから、令和6年度は引き続きアドバイザー業務を活用し、各関係機関と協議を行いながら、幹線バスに対して、ルート・停留所・ダイヤ・料金設定・車両運用などの詳細な事業計画を作成する。また、併せて、各市町の支線部分との接続や計画に記載する施策や事業の実施に向けて検討を進めていく必要がある。					
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)		種子島地域公共交通計画を策定していたことにより、突然の空港バス廃止に対応ができた。引き続き、計画の具現化に向け、1市2町で連携を深めていく必要がある。					
④ 改善 (Action)							
2024年度方向性		・ 種子島地域公共交通計画で定めた将来像の実現に向けて、幹線バスにおける公有民営方式の導入に向けた検討を種子島地域公共交通活性化協議会の中で行っていく。 ・ 種子島空港予約型乗合タクシーの実証運行と、令和6年10月からの本格運行に向けた準備を1市2町・関係機関と協力して進めていく。					